

テーマ「食品ロス対策」

【問】世界の飢餓人口の増加や「食品ロス」について、あなたはどのように考えますか。400字程度で自由に意見を述べてください。

最近、家族で食事に行き余った料理を持ち帰りたと思って、店員に尋ねると、「それはできないんです」と断られることが多い。どうやら、持ち帰った料理について、クリームをつけられたり、食中毒など健康被害の原因とされたりすることを恐れてのことのようだ。店側の論理から言えば、当然のことだろう。だが、それがそのまま捨てられてしまうことに根本的な問題がある。米国では、慈善団体などがレストランやスーパーから出る食品や食材でまだ食べることができるものを、ホームレスなど食事を必要としている人たちに提供するなど有効利用していると聞く。

レストランのテーブルに残された料理を見るたびに、「もったいない」と思うのは私だけではないだろう。なにも残飯を再利用しようというのではない。食べることのできるものを、提供できるものを、上手に再利用できないか、とっているのだ。「捨てる」から、「有効活用する」へと、発想の転換が求められているのではないか。

評：個人的な経験から書き出しているのが、文章に説得力が出ています。全体としてよくかけています。ただ、気になるのは、コメントにも書きましたが、「など」の多用、同じ言葉の繰り返し、目に付くことです。同じ事を違う言葉で書くことを考えましょう。また、段落の冒頭は、一字空けるのは鉄則です。ルールから外れた文章は、内容がどれほど良くても、それだけで「残念！」との思いを読む方に抱かせるものです。

コメント [a1]: 段落の文頭は一字空けるのが基礎的なルールです。また、1文が長いので、適当に切りましょう。例えば、「それはできないんですよ」、店の人にやんわりと断られた。最近、家族で食事に行った帰り、余った料理を持ち帰りたと思って、尋ねたときのことだった。

コメント [a2]: 「など」がこの一文だけで、3回出てきます。「など」が多いと、文に締りがなくなります。

コメント [a3]: 「有効利用している」の主語は、慈善団体です。離れすぎています。この文を例えば、「米国では、慈善団体がレストランやスーパーを回って、余った食品や食材を回収し、ホームレスのように食事を必要としている人たちに提供している、と聞く。有効利用のいい例だ。」などと書き直してみてもどうでしょう。

コメント [a4]: 「再利用」がすぐ後にも出てきます。繰り返しは、極力避けましょう。

コメント [a5]: 「使う方策はないか」としてみました。